

これまでの提言等の整理

主な対策		回数	委員等	資料・プレゼン・提言等	想定される行動例		
地域的な影響	直接的人為影響	過剰・不適切な漁業	漁業者による自主規制(操業区域、漁期、漁法などに関する自主協定)				
			密漁等の不正利用の監視				
			保護水面の指定				
		過剰・不適切な観光	持続的・適切な漁業				
			利用調整または入域制限	3	岩瀬	海域利用は国に利用権みたいなものをきちんと規制する仕組みを考えてもらいたい。	海域利用の調整に関する仕組の検討
				3	岩瀬・鹿熊	全国共通のルールづくり。それぞれの地域にあったルールを作るためのシステムやルールを破った人に対しては処罰を与えることができるというルールを作る。	海域利用の調整に関する仕組の検討
			ガイドライン、自主ルール、協定などの締結	3	灘岡	ペナルティと同時に、いいことをやっている人がいい目を見るルールがあるとよい。	海域利用の調整に関する仕組の検討
			モーリング・ブイの設置				
			ダイバーへの事前説明とダイビング中の指導				
			ガイドの導入(例:八重干瀬のような徒歩利用の場合)				
	持続的・適切な観光	3	灘岡	観光客の質を上げていけば環境への負荷は減っていくので、観光客の質をどうするか。	観光客に対する普及啓発の推進(何を普及啓発の対象にするかを明らかにする必要あり)		
	無計画・無配慮な沿岸域の開発・整備	自然環境保全地域、国立・国定公園海中公園地区等の海域の保護区の指定					
		自然環境保全地域、国立・国定公園海中公園地区等の海域の保護区の指定			サンゴ礁保護区ネットワーク会議で合意される予定の、「東アジアを中心とした海域におけるサンゴ礁保護区ネットワーク戦略」(2010年度策定予定)への対応。	海域の保全地域のネットワークの検討	
		エコポート施策の推進					
		埋立法・海岸法の遵守					
間接的人為影響	赤土等の土砂の流入	農地からの土壌流出の防止					
		林地からの土壌流出の防止					
		工事現場などからの土壌流出の防止					
	富栄養排水の流入	事業所からの排水規制					
		下水道整備	2	鹿熊	石垣島のように各家庭からの下水道への接続率が低い例や、座間味村のようにかなりいい下水処理施設を作ったが、ランニングコストがかかり過ぎて市町村の財政を圧迫している例もあるので、下水処理施設を整備していく方針を作る上でも今後注意しないとイケない。		
		浄化槽整備					
		農業集落排水施設整備					
		漁業集落排水施設整備					
		コミュニティープラント整備					
		家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進					
農業排水中の窒素及び燐の負荷量の軽減							
化学物質の流入	事業所からの排水規制						
	環境保全型農業の推進(農薬使用量の低減)						
グローバルかつ地域的な影響	オニヒトデ等による食害	オニヒトデ・サンゴ食巻貝等による食害					
		オニヒトデ・サンゴ食巻貝等の駆除					
グローバルな影響	海域影響	海水温の上昇に伴う白化、二酸化炭素の増加に伴う成長阻害	地球温暖化の防止対策				

主な対策		回数	委員等	資料・プレゼン・提言等	想定される行動例
総合的な対策	総合的な環境保全	2	灘岡	環境容量(キャリングキャパシティー)の議論を始めないといけない。沖縄県でキャパシティーの調査を始めたので、情報を共有していく。	生態系保全調和型地域づくりに向け、モデル的な統合的沿岸域管理計画等の策定を検討等
		1	寺崎	資源に影響を及ぼさない範囲で手を入れて利用する場所と保全する場所のメリハリをつけるべき。	
		策定会議	資料3	「サンゴ礁保全行動計画」の策定後は、本策定会議を「サンゴ礁保全連絡会議(仮称)」として、保全に対する取り組みの連絡調整の目的で、年1回程度開催する。	保全に対する取り組みの連絡調整を目的としたサンゴ礁保全連絡会議(仮称)の設置 等
		2	鹿熊	沖縄県内の海域の少なくとも半分以上はSPSSが5A以下の環境基準を設ける。	
その他の対策	再生の取組等(サンゴの移植・増殖、ビーチ・クリーンアップ等)				既存の知見を生かし、新たな自然再生の取組みの推進
	環境アセスメント等による環境保全上の配慮の実施				
対策のための基盤	現状把握(モニタリング)、環境教育、普及啓発の実施	1	林原	全国レベルで一斉にどこにどんなサンゴがあるかきちんと調べることが必要。	サンゴ調査の実施の検討 等
		1	中野	間接的にグローバルな影響があることを知っておくのは大事なので、既存の情報を集め利用できるようにする。	情報の収集・発信体制の整備 等
		1	灘岡	国際的なスキームの中で指標生態系としてのサンゴ礁の状態を積極的にアピールしていく必要がある。	継続的なモニタリングの実施
		1	日高	環境のモニタリングも必要。ウォータークオリティインデックスといて全部含めた水質評価を継続的に行う。	総合的な水質調査の継続的な実施、サンゴ礁の保全に向けた総合的な水質モニタリングのあり方検討 等
		1	中野	日本は調査がすごく多く、各省庁がいろんな調査をやっている。過去のデータ等もいろんな形で活用できるようにすべき。	情報の収集・発信体制の整備の検討(海洋基本計画の枠組みの中で、関係省庁で検討中)
		1	寺崎	経済的な側面だけでなく人文的な側面としてサンゴの付加価値を高め、環境教育や地域づくりにも利用するというようなしくみづくり。	
		2	中野	流域協議会等の活動の成果を評価するためにモニタリングの場所を一致させる必要がある。	
		2	灘岡	行政のレベルでモニタリングを行う。	継続的なモニタリングの実施
		2	安村	除草剤と銅イオンなど、複合的な汚染の影響の研究とモニタリングが必要。	複合汚染の影響に関する研究・調査の検討
		2	岩瀬	地下水や河口域などの流入源で栄養塩の調査をする。	流入源での栄養塩調査の検討
		3	寺崎	研究者の役割はガイドライン等を定める際の科学的な根拠をいくつか用意していくこと。指標となるものがあるとよい。	水質汚染に対するサンゴの閾値に関する研究の検討
		3	安村	協定とかルールはあるにこしたことはないが、ルールをどのように知らせるかということにそれ以上の労力を割かなくてはならない。	
行動計画策定に関する提言・その他		1	中野	今現在の高緯度サンゴ礁群集域において、沿岸生態系のどの機能をサンゴが担っていて、それと人間がどう関わっているのかということを確認にしないといけない。	
		1	日高	高緯度で分化したのは違うサンゴ群集なので、それはそれで守るべきだと思う。	
		1	安村	国レベルでどの省庁が何をできて省庁間でどう連携できるのか、という風に整理したほうがいい。	
		1	安村	グローバルな影響についても議論するのであれば国際連携をどのようにしていくかという整理も必要。	東アジアを中心としたサンゴ礁保護区ネットワーク戦略策定(環境省検討中)
		1	灘岡	温暖化が出てきたからこそ今まで以上にローカルな対策が重要だということを行動計画の中でしっかり出していく。	
		1	灘岡	日本では、グローバルな影響は与件として見る傾向があるが、世界的に見ると、じゃあやろうとして、学校現場へのフィードバックや、ローカルとグローバルのギャップを埋める方向に行っているというのが実感としてある。	
		1	日高	昔の太平洋の環礁の人々の生活を参考にする。	
		2	中野	沖縄の場合は、地表水の流域と地下水の流域が違うこと、河川が短いこと、台風で全部入れ替わることを念頭におかないといけない。	